

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定等に係る事業)

令和 年 月 日

協議会名： 八戸圏域地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名： 地域公共交通調査事業

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③計画策定等に向けた方針
【事業内容】 ・利便増進の方向性の検討 ・利用実績の整理 ・利便増進事業の検討 ・利便増進実施計画変更のとりまとめ ・運賃又は料金の設定に関する検討 ・各種会議の開催 【結果概要】 ・どのように住民の利便性向上を図るか、何の事業を実施するかについて、交通事業者や圏域担当者を変え、月に1回以上協議を行った。 ・ICカードデータにより、利用実績を整理することができた。 ・運賃改定を行った。 ・今後も協議会のほか、ワーキング会議や検討分科会での協議を重ねていく。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された(される見込み)。	・圏域各市町の住民の公共交通に対する利便性向上を図るため、学校の統廃合による移動ニーズの変化に対応するようコミュニティバスの再編事業を行う。 ・圏域市町で、令和7年度確保維持事業(地域内リーダー系統)の活用を見込んでいる。

地域の概要

1. 基礎データ

八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、
おいらせ町

人口: 304,231人

(R6.1.1現在・住民基本台帳)

面積: 1,346.84平方キロメートル

過疎地域等指定:

過疎(旧南郷村、三戸町、五戸町、田子町、南部町、新郷村)、
山村(三戸町、田子町、新郷村)

高齢化率: 33%

協議会開催数: 1回(R6.4~R6.12)

2. 公共交通の概況

【乗合バス】

①路線バス

運 行: 八戸市交通部、岩手県北自動車(株)、
十和田観光電鉄(株)

路 線: 50路線184系統

②コミュニティバス

運 行: 八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、
おいらせ町

路 線: 55路線

【鉄道】

運 行: 東日本旅客鉄道(株)、青い森鉄道(株)

路 線: 在来線2路線、JR東北新幹線

【乗合タクシー】

運 行: タクシー事業者4社

エリア: 八戸駅~中心街区間

【自家用有償旅客運送】

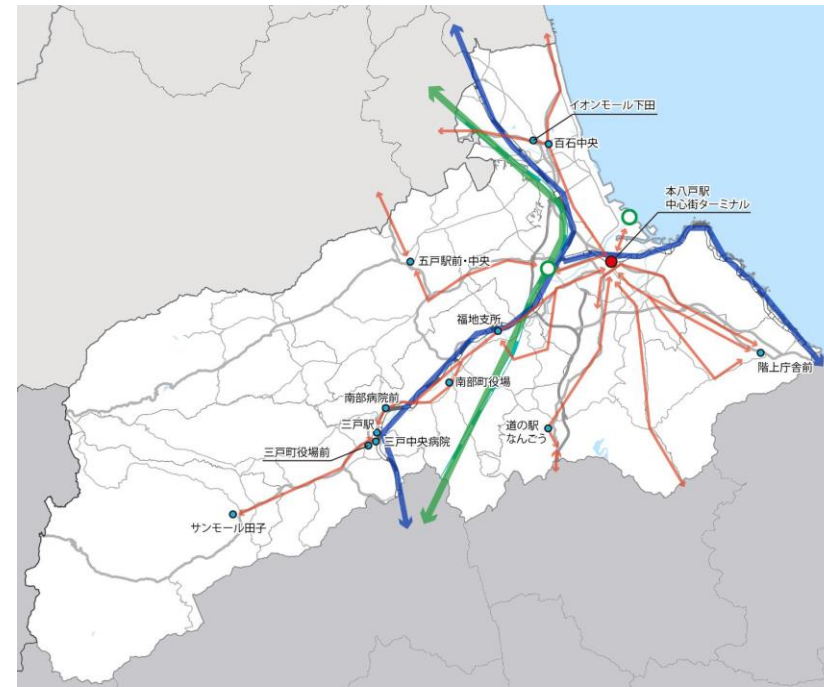
運 行: 島守地区自治会連合会

形 態: 公共交通空白地有償運送

エリア: 島守地区

3. 公共交通の問題点

- (1) コロナ禍、人口減少、少子高齢化の進展による影響もあり、公共交通の利用者数が低迷している。
- (2) 運行欠損の増加によりバス路線維持のための財政負担は年々増加しており、将来的に持続していくことが困難となる。
- (3) 市内幹線軸における高頻度運行を継続実施していくため、情報ツール等の活用を通じ、一層の利用促進を図る必要がある。
- (4) 交通事業者の運転手不足は深刻な状況であり、バス路線や運行本数の維持・確保を図るためには、運転手確保策に関する支援が必要である。
- (5) 県立高校の統廃合等による高校生の通学移動に対応できるよう、通学に利用可能な公共交通ネットワークを構築するとともに、積極的な利用促進を図り、過度に自家用車に頼らなくても生活できる環境を提供する必要がある。



八戸圏域地域公共交通活性化協議会

調査内容

【事業評価時点で完了している内容】

- 対象路線の事業実施の方向性検討
- 対象路線の事業の整理
- 利便増進実施計画のとりまとめ
- 各種会議の開催(公共交通会議、活性化協議会、バス事業者検討分科会)

【今後予定している内容】

- 各種会議の開催(公共交通会議、活性化協議会、バス事業者検討分科会)

調査結果概要

●対象路線の事業実施の方向性検討

- ・バス事業者検討分科会等を通じて、各市町村及び各バス事業者における路線再編の検討状況等を確認。
- ・再編の候補となっている路線については、利用状況等についても整理。
- ・コロナ禍や路線の減便などを踏まえた利用者数の変化について分析を行った。
- ・前回の再編による影響などはあるものの、全体的にコロナ禍からの回復基調がみられ、大きく問題を抱える路線は多くないことを確認した。

●対象路線の事業の整理

- ・八戸駅周辺のバス停からの距離が遠い地区を対象として、域内交通の導入に関する検討を進めた。
- ・地域住民との協議を行いながら、具体的な運行内容等の整理を進め計画の立案を行った。(令和7年度は実証運行とするため、計画には位置付けないこととした)

●利便増進実施計画のとりまとめ

- ・次年度以降の改定に向けて、前項で整理した内容を踏まえて利便増進計画(案)を作成した。

●各種会議の開催(公共交通会議、活性化協議会、バス事業者検討分科会)

- ・各路線に係る協議等を行うために、交通会議3回、協議会1回、検討分科会3回開催した。

○路線別の利用者数の推移(平日)

路線名	年度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年平均
八戸線	2022年(1)					23,015	35,561	31,420	33,058	34,138	34,141	34,792	34,061	33,719
	2023年(2)	28,465	30,064	36,293	33,637	33,106	37,966	33,121	33,955	34,190	36,597	32,924	34,884	33,767
	前年比(2/1)					100.3%	105.9%	105.4%	102.7%	100.2%	107.2%	97.4%	101.8%	100.2%
	2024年(3)	32,603	27,997	30,497	29,554	29,420	28,637	30,168	27,166	27,495				29,282
ニッポ線	2022年(1)					11,179	11,723	10,399	10,988	11,854	11,893	11,948	11,991	11,493
	2023年(2)	10,253	10,375	12,807	11,532	10,963	12,251	11,181	11,034	11,058	12,426	11,297	12,433	11,468
	前年比(2/1)					91.8%	104.5%	107.8%	100.4%	93.3%	104.5%	94.6%	103.7%	99.8%
	2024年(3)	10,881	8,770	10,042	12,685	12,764	12,931	13,672	12,554	11,917				11,735
県上線	2022年(1)					12,673	12,482	11,099	11,339	12,836	12,270	12,866	12,501	12,259
	2023年(2)	10,339	11,275	12,760	11,698	11,552	12,879	11,388	10,764	11,625	12,650	11,767	12,487	11,765
	前年比(2/1)					81.2%	103.1%	102.6%	95.0%	90.6%	103.0%	91.5%	99.9%	96.0%
	2024年(3)	11,184	8,095	9,718	11,143	11,190	10,721	11,361	9,263	10,381				10,455
五戸線	2022年(1)					10,857	11,614	9,894	9,469	10,437	10,377	10,324	9,919	10,361
	2023年(2)	8,419	8,438	10,459	10,439	10,300	11,371	9,875	9,157	9,896	10,788	11,411	10,973	10,127
	前年比(2/1)					77.3%	97.9%	99.8%	93.7%	94.8%	104.0%	110.5%	110.6%	97.7%
	2024年(3)	10,655	9,384	9,458	12,282	12,121	11,915	12,885	10,768	11,595				11,225
地へーピア	2022年(1)					9,247	9,773	8,700	9,188	9,293	9,545	9,683	10,021	9,431
	2023年(2)	7,970	8,604	9,821	9,140	8,723	9,469	8,597	9,590	8,854	9,405	8,421	9,674	9,023
	前年比(2/1)					85.7%	96.9%	98.8%	104.4%	96.3%	98.5%	87.0%	96.5%	95.7%
	2024年(3)	8,783	7,594	7,845	9,050	8,766	8,832	9,189	9,046	8,036				8,571
三八線(名島)	2022年(1)					10,151	10,576	9,939	10,694	10,898				10,093
	2023年(2)	110,113	98,375	79,998	99,001	100,576	99,936	106,974	94,378	90,894				99,095
	前年比(2/1)					98.7%	95.8%	107.5%	88.3%	89.8%				98.0%
	2024年(3)	7,568	6,648	6,657	9,692	9,601	9,601	9,194	7,674	8,374				8,334
高南	2022年(1)					108,771	106,974	112,570	102,671	110,373	116,676	106,174	104,771	104,974
	2023年(2)	110,471	91,971	82,971	119,971	113,471	104,671	110,771	98,271	100,771				102,771
	前年比(2/1)					103.4%	97.9%	107.7%	95.2%	100.7%				102.7%
	2024年(3)													

① 事業の概要

課題	事業実施の方向性
○管ノ沢地区は、路線バスが運行しておらず、また、個人タクシー会社が地区内に1社あるものの、車両台数が限られていることから、移動機会に不便を感じる住民が多い状況にある。	○2023年度には、地区から八戸駅周辺の商業施設などを運行するバス(無償)を実証的に実施し、当該地区における移動ニーズなどを把握している。
○このため、当該地区における不便の解消に向けて、持続性の高い移動手段の導入を進める必要がある。	○これらの結果等を踏まえて、管ノ沢地区と、交通拠点である八戸駅の間を運行する自家用有償旅客運送(公共ライドシェア)を導入する。
	○八戸駅からは路線バスなどの公共交通サービスが充実していることから、利用者ごとの目的地に応じて他の交通モードへの乗り換えを行うことで、移動ニーズに対応する。

※ 事業の概要

項目	事業実施の方向性	事業実施の方向性
対象路線名	※新設のため実施前の記載なし	管ノ沢地区自家用有償旅客運送
運営主体	同上	※調整中
運行事業者	同上	※調整中
事業の種類	同上	自家用有償旅客運送事業
運行形態	同上	路線定期運行
運行回数	同上	2~6回/日 (週2日運行:火曜・金曜)
運賃	同上	200円
備考	同上	令和7年4月~令和8年3月は実証運行、令和8年4月以降から本格運行(フィーダー系統補助に関する特例適用)

事業実施前

事業実施後(新設)



今後の取組みについて

【スケジュール(予定)】

- 1月中旬~ 各種会議開催
- 3月下旬 第2回協議会開催

【圏域の交通の目指す姿】

自家用車に過度に依存しなくても安心して生活を営むことができ、公共交通を軸とした活発な交流により多様な個性・特性が輝き、圏域全体が一体的に発展するとともに、圏域における定住促進に資する「公共交通指向型の圏域づくり」を目指す。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進に係る事業)

令和 年 月 日

協議会名: 八戸圏域地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域公共交通利便増進事業(利便増進計画推進事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
モビリティ・マネジメントの実施 ・高齢者が集まる講義において乗り方教室を1回実施。 ・親子でバスに乗れるデジタルチケット販売に合わせて、バス体験イベントを3回実施。 ・今後、地域住民や小中学生、高校生等を対象としたMMを7回程度実施する予定。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された(される見込み)。	引き続き、モビリティ・マネジメントを行い、住民による路線バスの日常利用の増加に努める。
バスマップはちのへ2025作成 ・1月に入札・契約予定 ・納品は3月末予定で、納品後順次配布開始	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された(される見込み)。	引き続き、利用者にとってわかりやすい情報発信を行い、利便性向上に努める。
八戸駅線リーフレット作成 ・1月に入札・契約予定 ・納品は3月末予定で、納品後順次配布開始	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された(される見込み)。	引き続き、利用者にとってわかりやすい情報発信を行い、利便性向上に努める。

八戸圏域MaaS事業 ・既存デジタルチケットのプロモーションを行い、利用促進を図った。 ・最終新幹線で八戸駅へ到着した人が中心街までの移動する手段として、深夜乗合タクシーの実証運行(R7.1.26～R7.2.20まで)を行う。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された(される見込み)。	・引き続きデジタルチケットの認知度を高めるため、プロモーションを行っていく。 ・次年度以降もデジタルチケット化を進めて利用者の利便性向上を図る。
ツールラック路線図修繕 ・運賃改定に伴い、市内5か所のターミナルツールラック路線図の修正を行った。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された(される見込み)。	引き続き、利用者にとってわかりやすい情報発信を行い、利便性向上に努める。

資料 2-2

3. 公共交通の問題点

1) コロナ禍、人口減少、少子高齢化の進展による影響もあり、公共交通の利用者数が低迷している。

2) 運行欠損の増加によりバス路線維持のための財政負担は年々増加しており、将来的に持続していくことが困難となる。

3) 市内幹線軸における高頻度運行を継続実施していくため、情報ツール等の活用を通じ、一層の利用促進を図る必要がある。

4) 交通事業者の運転手不足は深刻な状況であり、バス路線や運行本数の維持・確保を図るためには、運転手確保策に関する支援が必要である。

5) 県立高校の統廃合等による高校生の通学移動に対応できるよう、通学に利用可能な公共交通ネットワークを構築するとともに、積極的な利用促進を図り、過度に自家用車に頼らなくても生活できる環境を提供する必要がある。

過疎(旧南郷村、三戸町、五戸町、田子町、南部町、新郷村)、山村(三戸町、田子町、新郷村)

高齡化率:33%

協議会開催数:1回(R6.4~R6.12)

①路線バス

運 行:八戸市交通部、岩手県北自動車(株)、
十和田観光電鉄(株)

路 線:50路線184系統

②コミュニティバス

運 行:八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、
おいらせ町

路 線:55路線

【鐵道】

運 行: 東日本旅客鉄道(株)、青い森鉄道(株)

路 線:在来線2路線、JR東北新幹線

【乗合タクシー】

運 行: タクシー事業者4社

エリア:八戸駅～中心街区間

【自家用有償旅客運送】

運 行:島守地区自治会連合会

形態:公共交通空白地有償運送

エリア:島守地区

八戸圏域地域公共交通活性化協議会

事業内容

【事業評価時点で完了している内容】

● ツールラック路線図修繕

【今後予定している内容】

● モビリティ・マネジメントの実施

- ・地域住民や小中学生、高専生徒を対象としたMMを7回程度実施予定

● バスマップはちのへ2025作成

- ・入札、契約
- ・作成、配布

● 八戸駅線リーフレット作成

- ・入札、契約
- ・作成、配布

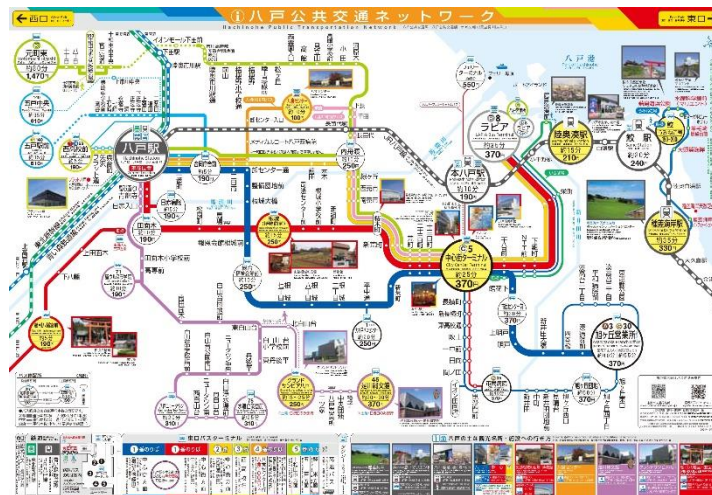
● 八戸圏域MaaS事業

- ・深夜乗合タクシーの実証運行
(R7.1.26～R7.2.20まで)の実施

事業実施概要

● ツールラック路線図修繕

- ・10/1運賃改定に伴い、料金が記載されている路線図と一体となったツールラック5カ所の路線図の表示内容の修正及び貼り替えを実施。



今後の取組みについて

【スケジュール(予定)】

- 1月～3月 地域住民等を対象としたMM開催
- 1月26日～2月20日 深夜乗合タクシー実証運行
- 1月下旬 バスマップ、リーフレット 入札・契約
- 2月～3月 作成
- 3月下旬 納品
- 3月下旬 協議会開催

【今後の動き】

協議会での事業の検証と検討、出前講座を中心としたモビリティマネジメントは今後も協議会で事業展開をしていくことを予定しており、公共交通の利用促進を推進していく。

また、MaaS事業を進めるため、交通事業者などと連携を図りながら、公共交通の利便性向上と利用促進を図るための環境の整備に努めていきたい。

地域公共交通利便増進事業（利便増進計画推進事業）の実施に関する計画

1. 地域公共交通利便増進事業（利便増進計画推進事業）の内容	
実施項目	実施内容
・モビリティマネジメントの実施	路線バスが使いやすく、頼りになる存在として認識・理解してもらうため、小学校や各地域住民向けにモビリティマネジメントを実施し、住民による路線バスの日常利用の増加を図る。 ①MMの企画・立案 ②小学生向けMM 3回 ③中学・高校生向けMM 5回 ④高齢者向けMM 2回 ⑤地域住民向けMM 2回
・バスマップはちのへ 2025の作成	八戸圏域を運行する3事業者のバス路線図を集約したバスマップを作成し、住民や転入者に配布する。10,000部作成。
・八戸駅線リーフレット作成	八戸駅～中心街を結ぶバス路線の時刻表や八戸駅へ接続する新幹線及び鉄道の時刻表を掲載し、市民・観光客をターゲットに配布する。15,000部作成。
・八戸圏域 MaaS 事業	様々な移動手段・サービスを組み合わせて1つの移動サービスとしてとらえ、ワンストップでシームレスな移動を目指し、利用者の利便性向上を図る。 ①鉄道・バス・タクシーの連携方策の検討 ②周知・PR や利用者アンケート、効果検証や課題の抽出
・ツールラック路線図修繕	運賃改定に併せて、交通結節点にある路線図の路線や運賃を修繕し、利用者に正しい情報を発信する。

2. スケジュール	
実施項目	4月 9月 12月 3月
・モビリティマネジメントの実施	
・バスマップはちのへ 2025の作成	
・八戸駅線リーフレット作成	
・八戸圏域 MaaS 事業	
・ツールラック路線図修繕	

地域公共交通利便増進事業（利便増進計画策定事業）の実施に関する計画

1. 地域公共交通利便増進事業（利便増進計画策定事業）の内容	
実施項目	実施内容
・ 運賃設定の検討	乗務員不足の解消及びバス路線や交通サービスの維持を確保するために適正な運賃設定に関する検討を行う。
・ 利便増進実施計画（案）の策定	地域住民のニーズを把握するため、バス IC カード可視化・分析システム等を活用し、利用実績を整理しながら、各検討分科会での協議結果をもとに、計画をとりまとめる。
・ 協議会開催	運賃設定に向けた議論や、地域公共交通計画の検証・モニタリングを行うための協議会を開催する。

5. スケジュール				
実施項目	4 月	9 月	12 月	3 月
・ 運賃設定の検討				
・ 利便増進実施計画（案）の策定				
・ 協議会開催	